

# 釧路新郷土芸術賞に輝く

受賞者の  
横顔

□ 2 □

若さをぶつけ入  
選を重ねる

日書道展などに若さをぶつ  
けて入選を重ね、昭和六十  
一年には市内で初の個展を  
開いてみた。その案内文に  
安藤さんは「今までは迫力  
は自然と言え。道展や毎  
のある字、瞬間、直感に訴

## 書道

安藤 聴空さん

釧路市大川町三の二七



## 迫力の中に温かさを

### 篆刻や刻字制作にも情熱

える作品を創ったが最近  
は、静謐せいひつかな中にも

書きたい。老成や稚拙を技  
巧で気取るのではなく、本

人、無窮の道を暗夜たどる

入ってきて、書をますます  
疎遠にしている。書は展覧

は全道書道展で札幌市議会  
議長賞を得た。「いわば三つ

色や照りや冴えのある字が

「人間くさい字を求め  
て」と安藤さん

当に生命力の宿る字を書  
く。それが今、私を苦しめ  
ている」と綴った。

に似ている。この道を歩い  
て三十年の歳月を刻んでき  
た。この間、詩人・三木露

書人として大変な道程にな  
る。現代、全道書道展会友、  
道東書道展審査員を務めて

毎日書道展に入選(以降、  
毎年入選)。五十九年に道  
東書道展審査員、六十年

この個展にエネルギーを  
投入し過ぎたのか、終了後  
実は字が書けなくなった。  
全力を出しきった後に訪れ

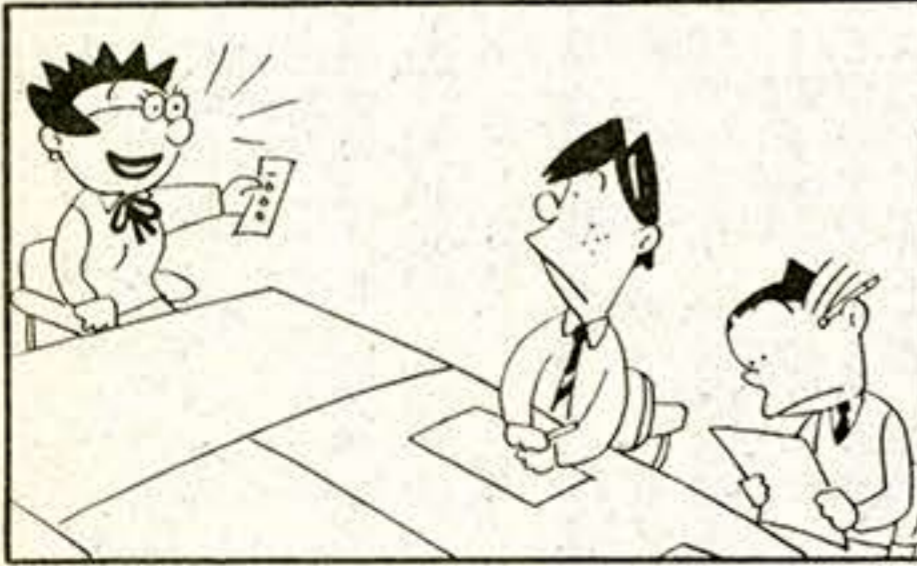
風の詩の一節「光を求める  
心こそ死よりも強きものな  
らむ」が安藤さんを支える  
座右の銘だった。

〈略歴〉昭和二十八年、  
釧路市生まれ。父は書家  
で安藤印舗の元常務、仙

全道書道展会友、初の個  
展を開催。

## アップル君

木崎征夫



### 来年の個展に向け精進の日々

た空感が改めて書の見直し  
を迫ることになる。「人間く  
さい字を書ければ良いと最  
近は思っている。迫力のあ  
る中にも、温かさのこもつ  
た字を目指したい」と安藤  
さんは言う。書の世界も一  
人、無窮の道を暗夜たどる  
入ってきて、書をますます  
疎遠にしている。書は展覧  
会などでしか生き残れな  
い。その展覧会で入選、受  
賞を続け認めてもらうのは  
書人として大変な道程にな  
る。現代、全道書道展会友、  
道東書道展審査員を務めて  
いる。幼稚園児から高校生  
までの約百人を指導する毎  
日でもある。週一回、早朝  
スイミングに通って体力増  
進にも励んでいる。書のほ  
かに篆刻や刻字制作にも情  
熱をぶつける。この篆刻で  
は全道書道展で札幌市議会  
議長賞を得た。「いわば三つ  
巴でできたがそれが現在の私  
を作っているのではない  
か」。来年八月には釧路と札  
幌で個展を開く予定だ。新  
たな精進の日が続きそう  
だ。